



砂防・地すべり現場見学会



6月は土砂災害防止月間です。
6月14日に大鹿小学生3、4年生8人を対象とした
砂防・地すべり現場見学会が天竜川上流河川事務所主催のもと、
塩川床固工群工事にて大河原砂防安全協議会と合同で行われました。
普段完成したものしか見ることができませんが、どのようにして工事が完成す
るか、見えないところはどうか知ってもらい、様々な体験をしていただきました。

砂防学習



砂防ステーションにて大鹿村の災害の歴史や砂防の仕組みを勉強しました。

測量体験



現場で実際に使用している測量機器を使って体験してもらいました。
100m以上離れた距離も瞬時に測れる機械にとっても驚いていました。



鉄筋の結び方体験



鉄筋コンクリート構造物で実際にしている作業を体験してもらい仕組みを知ることができました。

重機の搭乗体験



工事現場で必ず使う大型重機の操作体験をしてもらいました。用途に合わせて様々な機能を使い分けることができ、そのスケールの大きさに子供たちは興奮し感動していました。



大きい石が割れた時が
ちょー気持ち良かった！！

大きくてカッコよかった！！



重たくて持ち上げれないー

人の力ではビクともしない巨石を簡単に持ち上げる機械の力に驚いていました。

大型クレーン



大型クレーンで約4tのミニバックホウを吊り上げ建設機械の動力を見てもらいました。

ドローンによる撮影



現在建設現場で主流になってきているドローンを使い現場周辺の映像をみてもらいました。

魚の放流



大きくなってね！

魚の放流を行い、自然の大切さを知ることができました。

～～見学会を終えて～～

大河原砂防安全協議会、その他関係者の準備のおかげで無事に現場見学会を行うことができました。見学会では、大鹿小学生の笑顔がたくさん見ることができ、働く人達もより頑張れることだと思います。これからも、大鹿村の自然、大鹿村に住んでいる方々、そして子供たちの笑顔を守る建設業として、これからも日々工事を進めて行きたいと思いました。

【三六災～あの日から56年～】

三六災



昭和36年6月、今から56年前に起きた三六災。当時伊那谷では1週間で年間平均雨量の3割を超える豪雨(総雨量560mm)を記録しました。そのため、各地で堤防の破堤、氾濫が発生しました。大鹿村では大西山が大崩落し、死者、行方不明者を出すという大惨事が発生しました。この災害後、天竜川では、河川改修計画の変更や土砂災害対策などが全面的に実施されることになりました。

大西公園 慰霊祭



6月29日に大西公園では災害を経験した方による慰霊祭が行われました。当時を知る倉田さんは、「山が倒れるように崩れてきて、この下には田んぼがあったが一瞬で埋まってしまった。対岸まで土砂が押し寄せてきた。そしてここ大西公園はすごい量の土砂と大きな石がゴロゴロしていたけど、多くの人たちの力のおかげで、長い年月をかけてこうしてきれいな大西公園ができた。」と、当時の様子を教えていただきました。

大西公園 大西観音



献花式



天竜川上流河川事務所でも三六災害犠牲者への献花・焼香が行われました。この日は当時に比べ気持ちのいい夏空でした。

～～取材を通して～～

平成生まれの私たちにとって56年前の三六災は聞いたことはありますが、当時の状況はなかなか理解することは難しいことです。だんだんと災害に対する記憶が薄れていると思います。しかし、同じことが起きないようにこの災害を忘れてはいけません。どれだけ時間がたっても次の世代に受け継いで、力を合わせていく必要があると、経験者の取材を通して感じました。

【大鹿登山口開山式】



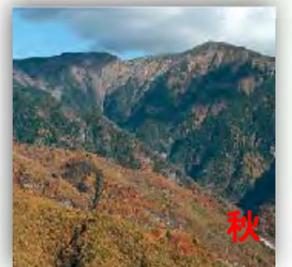
南アルプスの魅力



日本地図で見ると、南アルプスは南北に伸びる一本の山脈に過ぎない。しかし、山岳の地形は変化に富んでいる。南アルプスは変化に富んだ景色が多くあり、訪れた人たちに感動を与えてくれる。



冬



秋

6月7日に大鹿村交流センターにて南アルプス大鹿登山口の開山式が行われました。約40人と多くの関係者が出席され観光や登山で訪れる人たちの安全を願いました。今年からはウェストン碑前で開かれる予定でしたがあいにくの雨のため同センターで行われました。柳島貞康村長が「今年の登山者、関係者の1年間の無事を祈願する」とし、開山を宣言。神事で玉串を捧げて安全を祈願しました。